



1. 2年生校外学習について

1、2年生の校外学習は臨時休校により実施することができませんでした。しかし、この仲間づくりを意識した取り組みは、本格的に始まった学校生活の基盤となる活動になると期待しているものです。改めて、保護者の皆様からのご意見を集約をさせていただき、PTAの役員方とも協議の上、ご連絡をさせていただきます。

【1年生】 船上山宿泊研修

「一致団結 ～みんなで心を1つにして 船上山の活動をがんばろう～」のスローガンのもと、中学校の学習の仕方や、様々な活動を通して、集団生活の大切さや仲間意識のさらなる向上を図りたいと考えています。

<一昨年度の宿泊研修>



【2年生】 校外学習

「Re:start」のスローガンのもと、北栄町内の隅から隅までオリエンテーリングを行い、グループで協力して助け合う気持ちが大切であることを再確認したいと考えています。

※当初の活動予定

<昨年度の2年生校外学習>



大栄中学校区コミュニティ・スクールについて(学校経営方針 その2)

前回の学校だよりで、本年度の学校経営方針の「知」「徳」「体」「地域連携」の4本の柱のうち、「知」に関することについてお伝えしました。次は、「地域連携」についての話をしたいと思います。

「地域とともにある学校」に向けて、地域と学校が「めざす子ども像」を共有し、一緒に育てようというのが「コミュニティ・スクール(以下、「CS」と記載)」です。

昨年度は北栄町の学校で本校が先行導入しましたが、今年度からは大栄中学校区に学校運営協議会(委員は地域の方を中心に14名で構成)を設置し導入します。これまで生徒と地域の関わりや教育に係る地域の支援や協力は多くありました。それを更に充実させるために地域・学校それぞれでどんなことができるのかを考えながら進めているところです。



昨年度の取組として、「マスクづくり」、「事業所訪問調査活動」、「Let's go 北栄ソーア」、「食生活改善推進員さんとの調理実習」、即興書家TADAさんを総合MCとして開催した「大栄中白熱大討論会」、「大栄中ゆるキャラ総選挙」を実施して制作した、地域・保護者と学校を繋げるシンボルキャラクター「だいちゅー」、また、地域からのボランティア募集や地域に関する情報などを情報発信するために生徒玄関に設置した電子掲示板「大栄中ハロー&ワーク」、武道館1階に設置した「CSルーム」を毎週火曜日の午後開放する試みもスタートしました。

大栄中学校区の「めざす子ども像」は、引き続き「響き合い 挑戦するねばりっ子」。校区CS導入により、校区における地域との連携・協働体制を組織的・継続的に構築していく土壌をつくるのが今年度の位置づけになると考えています。まだまだCSがどういうものなのかイメージがわからない、という声を聞きます。実際は「こうするもの」というものではなく、地域や学校の状況に応じて学校、保護者や地域の方とともに創り上げていくものです。裏面の活動のマップは、地域と協働してできるのではないかと、いうものをまとめたものです。実際、黒ぼく太鼓は、生徒の自主的な動きから復活したのはご存じだと思います。今後も、CSのあり方について学校運営協議会などで熟議していきたいと考えています。

学校経営方針 その3

次は、「徳」についてです。個性豊かな生徒たち。一人ひとりが輝き、充実した学校生活を送るためには、仲間との協力、協働は欠かせません。お互いの個性を認め合い、切磋琢磨しながら自己を磨いていく生徒を育成したいと考えています。

今年度も、「道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実」、「行事を核とした認め合う、高め合う仲間づくり」を取り組みの重点としています。変化の激しいこれからの社会を生き抜くためには、自分の培ってきたよりよい価値観(判断基準)を見失わず



柔軟に生きていくことが大切だと考えます。そのような力をつけるためには、考える力が不可欠です。だから、勉強するのです。各教科だけでなく、道徳教育・人権教育・特別支援教育、学校行事等を通して、友だちだけでなく地域住民の方々など多世代の素敵な大人との関わりの中で、様々な考え方や価値観に触れる中で、新たな自分を発見したり、いろいろな考え方ができたりできるようになってほしいと思っています。そして、そのような中で、よりよい価値観(判断基準)を培ってほしいと願っています。左の写真は、昨年度の人権全校集会で学年の垣根を超えて、「私が思う一番悪い差別とその理由」についてディスカッションしている様子です。

もう一つ、生徒会活動を中心に、挨拶、無言美化、時間を守るなど、当たり前だが当たり前でできることに繋がってきていると感じています。そこで、今年度は「当たり前前のさらなるレベルの向上」と「さらなる」という言葉を追加しました。

挨拶や美化といった生活面と、学習や部活動などの成績は決して別々のものではなく、根底の人間力が問われることです。その力を磨くために生活や勉強の両面に頑張っていると言っても過言ではないでしょう。でも、そんなことは本当はみんなが知っています。ただ、数字では表しにくい生活面は、よほど意識していないと、つい後回しにされがちです。そうならないために、私たちはお互いに声をかけ合ったり、「OO運動」として行動に移してみたり、当たり前前のことが何とか当たり前のみまであるようにするために意識して頑張らなければなりません。さらに、生徒たちも先生たちも、ご家庭の方もみんな声をかけ合うことで、当たり前前のレベルをさらに上げていくことが大切だと考えています。そして、そんな声のかけ合えることができる学校を生徒会活動を中心につくりたいと思うのです。

